

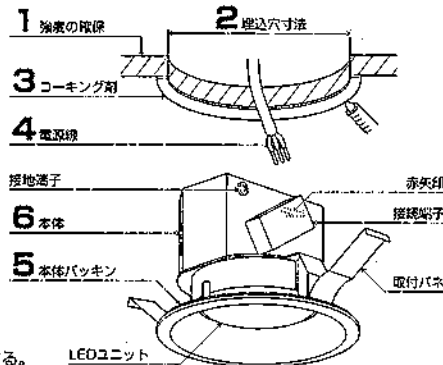
注意

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、
傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性があります。

	点灯中や消灯直後は器具が高熱のため触らないでください。→やけどの原因になります。		ガス機器など、温度が高くなるものの上への取付けや、器具の下にストーブなどの高温のものを置かないでください。また、燃えやすいものを近づけて使用しないでください。→火災の原因になります。
	ライトコントローラなどの調光器との併用はできません。→火災の原因になります。調光器の取外しが必要です。調光器の取外しには資格が必要です。工事店・電器店に依頼してください。		照明器具の寿命は、使用条件、使用環境で異なりますが、一般的な使用状態で8~10年が目安です。数年に1回は、専門家(工事店・電器店)による点検を実施していただき、不具合がありましたら適切な処置を施してください。→放置すると、火災・感電・故障の原因になります。

■施工手順 △注意 取付けの際は必ず電源を切ってください。感電の原因になります。

※この図は一部抽象化した共通図面です。
※製品の有無・損傷を確認し、不備の際は取付けしないでください。



1 施工前の確認

器具重量に耐えられるよう、取付部の強度を確保する。

2 天井に埋込穴をあける

型番	埋込穴寸法	天井材厚
AD72000L・AD72001L・AD72002L AD72003L・AD72004L・AD72006L GD50232L・GD50235L・GD50925	$\phi 100^{+2}_{-1}$	5~25mm
AD50596・AD50597	$\phi 125^{+2}_{-1}$	

3 取付面が凹凸のある天井の場合

<防雨・防湿型・屋内用高気密形で取付ける場合>

取付面と本体の間にすきまが発生している場合は、コーキング剤で天井面を平面にする。

△注意 タイル面などの取付面に凹凸がある場合はすきまを埋めてください。

火災・感電の原因になります。または気密性が保たれません。

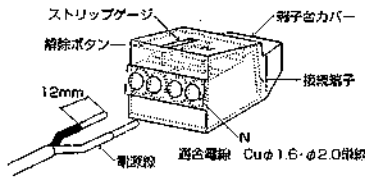
4 電源線を接続する

右図のように電源線の被覆をむき、端子台カバーの上から電源線を接続端子に確実に差し込む。このとき、電源線は器具から離して施工する。また、送り配線は照明器具専用とする。

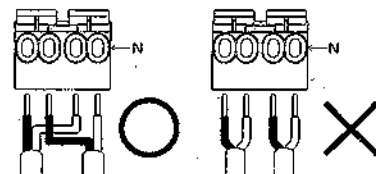
外す時は解除ボタンを押しながら、電源線を抜く。

△警告 防雨・防湿型で取付ける場合は、D種(第三種)接地工事を行ってください。

接地工事が不完全な場合、感電の原因になります。



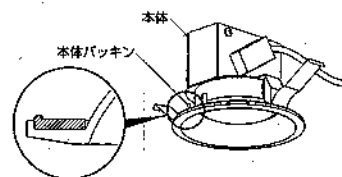
△警告 電源の接続は確実に行ってください。
端子台カバーを外さずに電源線を接続してください。接続が不完全な場合や電源線が器具に接触した場合、容量オーバーした場合は火災・感電の原因になります。



5 本体バックンを取付ける

本体バックンを本体に確実に取付ける。

※本体バックンが外れていると防水性または気密性が損なわれます。



6 本体を取付ける

取付バネを矢印の方向に押さえ、本体を埋込穴へ入れ、押し上げる。このとき、埋込穴と器具枠の中心を合わせるようにして確実に取付ける。

※中心が合わないとき気密性が損なわれます。

<傾斜天井に取付ける場合>

赤矢印を傾斜方向下側に取付ける。

※配光は傾斜天井対応ではありません。